

帰国子女らに日本語指導

講師派遣で上達早く

県教委本年度事業

徳島県教委が本年度から始めた日本語指導講師の派遣事業が、学校現場で効果を発揮している。県内には外国人や海外生活が長かった日本人の子弟ら、日本語の指導が必要な児童生徒が47人いる。教職員だけの対応には限界があり、日本語指導のノウハウを持つ講師が加わることで、児童生徒の学習意欲もぐんと高まっている。

県教委によると、日本の日本語教師。現在の派語の指導が必要な児童生徒 遣先は小学校8校、中学生は昨年の22人から、2校1校のほか、幼稚園2倍以上に増えた。学校現場から支援を求める意見もあり、7月から県安心子ども基金を活用して同事業を始めた。

講師は、徳島市で日本語教室を開いている市民団体「JTMとくしま日本語ネットワーク」所属の国語や社会の教科学習に

個別に対応 学習意欲向上



村松さん(左)から日本語を教わる幸田君一(右)昭和小学校

苦勞しているという。このためJTMとくしまの村松幸子さん(72)が週1〜2回、日本語や科学習の支援に当たっている。日本語の指導はマンツーマン方式で、9日は同級生が社会の授業を受けている時間を使い、日本語での数の教え方を教えた。

わずから3カ月余りだが、幸田君の日本語はめきめき上達している。クラスメートに中国の学校生活を紹介するという目標を掲げていて「日本語は難しいけれど、早く覚えて友達といろんな話をしたい」と張り切っている。

(藤田純)

きょうの紙面

テレビ 22 23

- 「女性宮家」創設を本格検討 大塚テクノが鳴門第2工場 柏、クラブW杯準決勝敗退 「技の館」が藍染体験再開へ 日本語指導講師派遣が効果 元県職員、犯行に公用車使う
- 3 7 15 18 28 29